

ノッティンガムトレント大学との連携によるテキスタイルからファッションデザインに至るシームレスな人材教育システムの開発研究

DEVELOPMENT OF SEAMLESS EDUCATION SYSTEM FROM TEXTILE TO FASHION DESIGN IN COLLABORATION WITH NOTTINGHAM TRENT UNIVERSITY

野口 正孝 芸術工学部ファッションデザイン学科 教授
小北 光浩 芸術工学部ファッションデザイン学科 助教
松永 彩 芸術工学部ファッションデザイン学科 助教
金沢 香恵 芸術工学部ファッションデザイン学科 助教

Masataka NOGUCHI Department of Fashion and Textile design, School of Arts and Design, Professor
Mitsuhiro KOKITA Department of Fashion and Textile design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Aya MATSUNAGA Department of Fashion and Textile design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Kae KANAZAWA Department of Fashion and Textile design, School of Arts and Design, Assistant Professor

要旨

本学とノッティンガムトレント大学は、一学科内にテキスタイルとファッションの二つの領域を持つ大学であり、人材育成に関する共同研究を行った。これまで、日本、イギリスを含む先進工業国においては自国のテキスタイル産業の上にファッション産業が成り立っていた。しかし、どちらの国においてもテキスタイル産地は、技術力を増した安価な新興国に市場を奪われ、存亡の危機に立たされている。これまでテキスタイル産地はファッションメーカーからの受託生産を行っていたため、高度な技術力は持つ人材はいるものの、最終製品に対する感性を持つ人材が不要であった。今日、テキスタイル産地では最終製品を想定し、付加価値の高いテキスタイルを創り出す人材が求められている。一方、ファッションの現場では、テキスタイルの重要度が増し、素材から最終製品にいたるシームレスなデザイン力が求められている。このような産業界の変化に対し、多くの教育機関ではテキスタイルとファッションデザインは異なる分野で教育が行われている。本研究は、テキスタイルとファッションを一つの文脈におき、シームレスで一貫した教育のシステムの開発と人材育成を行うことを目的とする。テキスタイル産地の疲弊という同様の背景の中で、両校が同じテーマで教育・研究をすることにより、本学科独自の教育システムの構築を模索する。

Summary

This was a challenging project and a seamless education program as university, which educate to range from textile design to fashion design.

Nottingham Trent University and Kobe Design University desired to research together to develop a seamless and consistent educational program, which cultivate students to acquire wide range of fashion field from textile design to fashion design.

Value of textile is becoming more important to fashion industry and they require a person who can create fashion design that is included textile design. In addition they expect designers who have very high quality textile design faculty, which can focus details of fashion products. However most of educational institutes educate textile and fashion in separately.

Nottingham Trent University and Kobe Design University who have two fields of fashion and textile design, cooperate to raise the seamless educational system.

1.目的

神戸芸術工科大学(以後 KDU と表記)とノッティンガムトレント大学(同 NTU と表記)は一学科内にテキスタイルとファッションの二つの領域を持つ大学であり、人材育成に関する共同研究を行った。これまで、日本、イギリスを含む先進工業国においては自国のテキスタイル産業の上にファッション産業が成り立っていた。しかし、どちらの国においてもテキスタイル産地は、技術力を増した安価な新興国に市場を奪われ、存亡の危機に立たされている。これまでテキスタイル産地はファッションメーカーからの受託生産を行っていたため、高度な技術力を持つ人材はいるものの、最終製品に対する感性を持つ人材は不要であった。今日、テキスタイル産地では最終製品を想定し、付加価値の高いテキスタイルを創り出し、自ら提案を行う産地が変わることと同時にそれを実現する人材が求められている。一方、ファッションの現場では、テキスタイルの重要度が増し、素材から最終製品にいたるシームレスなデザイン力が求められている。近年、ファッションデザインにおいては、素材が持つテキスチャーに重要度が高まっているためである。本研究は、テキスタイルとファッションを一つの文脈におき、シームレスで一貫した教育のシステムの開発と人材育成を行うことを目的とする。テキスタイル産地の疲弊という同様の背景の中で、両校が同じテーマで教育・研究をすることにより、本学科独自の教育システムを構築することを目指した。

2.スケジュール

2014年4月～5月：2015/16 秋冬企画のコンセプト、テーマのビジュアルリサーチ、産地リサーチ、NTU とのテーマに関する打ち合わせ

同年5月～7月：テキスタイル、および最終製品コンセプトワーク、イメージワーク

同年8月～9月：両校のテキスタイルイメージの検討、テキスタイル・シミュレーション作成、使用糸(素材や

色)の決定、サンプル用生地
の制作開始

同年10月～11月：テキスタイル織布依頼、モデル
設計、イメージモデル制作

同年12月～15年1月：織布上がり、製品モデルサン
プル縫製、カタログ等広報物作
成

同年2月：展示プラン作成

2月17日～19日：展示会「rooms30」に出展

3.ワークショップ

播州織は、本学の近隣に位置する北播磨地域の地場産業であり、国内有数の先染綿織物の産地である。本研究は、地域の産業に貢献する本学と産地に根ざした人材育成教育において実績のあるNTUとの国際連携、および播州織の企業との産学連携による共同研究である。両校のファッションおよびテキスタイルを学ぶ学部生、大学院生を対象にして、両分野の垣根を越えたワークショップを通じ、テキスタイルからファッションに至るデザインワークを行い、シームレスな教育システムを実践の中で模索する研究を行った。ワークショップには、KDU から大学院生3名、学部生21名の合計24名、NTUからは大学院生19名が参加した(図1、2)。播州織産地からは産元商社の株式会社丸萬、織布工場の遠孫織布株式会社が参加した。



図1(左)：産地でのワークショップ

図2(右)：NTUでのミーティング

2015/16 年秋冬に向け、播州織の特性を踏まえて、付加価値の高い製品をマーケットにアプローチすることを目的に「モダンなコンテンポラリーデザイン」をコンセプトとして、オリジナルなジャガード織のテキスタイル製品とその生地を用いた最終製品を制作する

ことにした。ターゲットブランドとしてフィリップ・リム (Phillip Lim)、アクネ (Acne) を挙げた。そのため、テキスタイルデザインの提案においては、単に柄を平面的にデザインするのではなく、先染織物の特徴、生地組織を活かし、柄と風合いや生地の表情をデザインすることを検討した。組織を変え、多様な糸を使うことで柄だけでなく風合いや見え方も変わり、立体感のある生地やこれまでと異なるテクスチャー、肉厚に見えても軽いなど、見た目だけでない素材作りを目指した。主なテクニックとして、クラッシュジャガード、リバーシブルジャガード、フォトジャガード、マイクロジャガード、ブロークンチェックジャガード、カットジャガード、ダブルフェイス、ダブルウォーヴェンなどを用いることにした。

テーマに関するビジュアルイメージ (図 3) を作成し、NTU との打ち合わせを行い、「移ろいゆく自然」と「重なり」を統一テーマとして決定した。



図 3: テーマに関するビジュアルイメージ

本学においては、統一テーマを踏まえて、ワークショップ内でイメージワークを行い、「日本の自然」をテーマとして挙げ、キーワードを出した。

キーワード

- ・芯のある凛とした佇まい
 - ・クリーンなラインに見え隠れする儂さ
 - ・内面の美しさを引き出すシンプルでしなやかな服
- また、統一テーマの「重なり」から、花びらの重なりや自然にみられる「層」をインスピレーションし、テキスタイルのデザインワーク (図 4) を行い、テキスタイルイメージ (図 5) から、織布組織、使用する

糸などの規格を株式会社丸萬のデザイナーと詰め、コンピュータージャガードのデータを作成し、遠孫織布株式会社で織布を行い、テキスタイルの製品サンプル (図 6) を制作した。



図 4: KDU 大学院生松本沙也加のテキスタイルデザインワーク

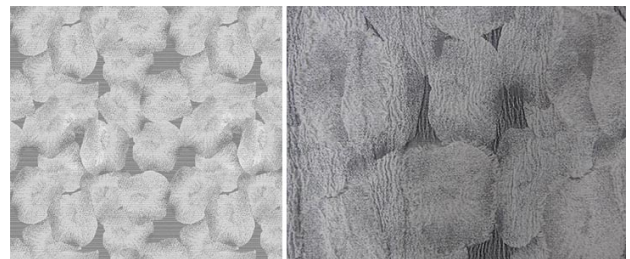


図 5 (左): 同テキスタイルイメージ

図 6 (右): 同テキスタイル製品サンプル

NTU においても同様にデザインワーク (図 7) を行い、テキスタイルの製品サンプル (図 8) を制作した。

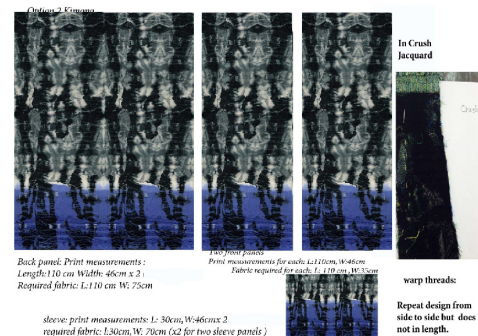


図 7: NTU 大学院生 Mehreen Anwar のデザインワーク



図 8: 同テキスタイル製品サンプル

両校では、制作されたテキスタイル製品見本を用いて最終製品である衣服モデルサンプル(図9、10)を作成した。制作された成果物は以下の通りである。

神戸芸術工科大学

テキスタイルサンプル： 8素材(色展開12素材)

衣服モデルサンプル： 15型

ノッティンガムトレント大学

テキスタイルサンプル： 5素材

衣服モデルサンプル： 5型



図9(左)：KDU、松本沙也加のテキスタイルを用いてワークショップ内で共同デザインした衣服モデルサンプル

図10(右)：NTU、Elaine Brown、Laura Worthingtonがデザインした衣服モデルサンプル

4.成果物の発表

成果物は、東京の国立代々木競技場で開催された合同展示会「rooms 30」(注1)地場産コーナーに本学とノッティンガムトレント大学、および丸萬株式会社のコラボレーションとしてブースを設けて発表した(図11)。同地場産コーナーは2012年スタートし、伝統工芸や地場産業にフォーカスを当てたもので、22都道府県から約150ブランドが出展した。本学のブースへの来場者数は約150名、40名程度のテキスタイルおよびアパレル企業関係者と意見交換を行った。



図11：「rooms30」ブースでの展示

5.今後の課題

テキスタイルとファッションを一つの文脈におき、シームレスな教育のシステムの開発と人材育成を行うことを目的として、本学とノッティンガムトレント大学の産学連携によるワークショップを実施した。テキスタイルのデザインワークを行う段階から最終製品であるファッション製品を想定し、同じ枠組みの中で、ターゲットを設定し、コンセプトワーク、デザインワークを行うなど、従来テキスタイル、ファッションデザイン教育では行われていなかったことを試みた。その中で、これまでの教育の中で求めることが難しかったテキスタイルとファッションが融合したデザインワークを行い、工業的に生産したテキスタイルを用いてファッション製品を制作することができたことは、両分野を持つ本学科ならではのことであった。しかし、今回は大学のカリキュラム外で、限られた学生のみ参加したワークショップ内における教育の試みであったため、実際のカリキュラムの中にどのように組み込めるのかは今後の検討課題である。また、この試みが次世代の日本のテキスタイル産業、ファッション産業において求められる人材育成に叶っているかどうかの検証も行っていかなければならない課題である。

注1「rooms 30」国内最大級のファッションの合同展示会。2015年春の展示会で開催30回目を迎える実績を持つ。